

令和5年度 港区立三田中学校 学校経営計画

I 学校経営方針

生徒が生涯を通じて夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動できる、「何事にも主体的に取り組む生徒」の育成を目指すとともに、地域に根ざし、愛され、信頼される中学校づくりを目指す。そのため、以下の活動を行う。

- 伝統的な校風(明るいあいさつ、真剣な学習、活発な行事・部活動)を継承する。
- 基礎学力の確実な習得ができるよう丁寧な学習指導に当たり、生徒の主体的な学習(学び合い、教え合い、話し合い)活動を通して一人一人の個性を伸ばし、「学びに向かう力」を涵養する。
- 活発な部活動・特別活動を通して、主体的な、質の高い集団を育成する。
- 基本的な学習習慣、基本的な生活習慣の確立を目指し、定着を図る。
- 保護者・地域・近隣の幼稚園・小学校・関係諸機関との緊密な連携を図り、地域に愛され、信頼される中学校を目指す。

本校の良き校風である ①明るいあいさつ ②真剣な学習 ③活発な行事・部活動の推進を徹底する。また、「何事にも全力で取り組む文化」を大切にし、そこから醸成される団結力や豊かな人間関係を基盤として、様々な教育活動を展開していく。

「良い習慣は、良い人格をつくる」を合言葉に、良き校風を発展させ、学校での基本的な学習習慣、生活習慣の定着を図るため、生徒の実情に合わせたMITAルールを定め、継続的に指導を行う。また、特色ある教育活動であるキャリア教育<MITAキャリア学習>の着実な実践を図り、人生において、主体的な進路選択ができる力を育成する。

学校の教育目標

[目指す生徒像]

21世紀の超スマート社会(Society5.0)や人生100年時代を生き抜くために、ICT技術とともに、共感性やコミュニケーション能力のある、人間性豊かな生徒の育成を目指す。

- 自他を尊重し、共感し合う生徒【共感】
- 自ら学び、考え、行動する生徒【自立】
- 健康・明朗で礼儀正しい生徒【礼儀】

[目指す教師像]

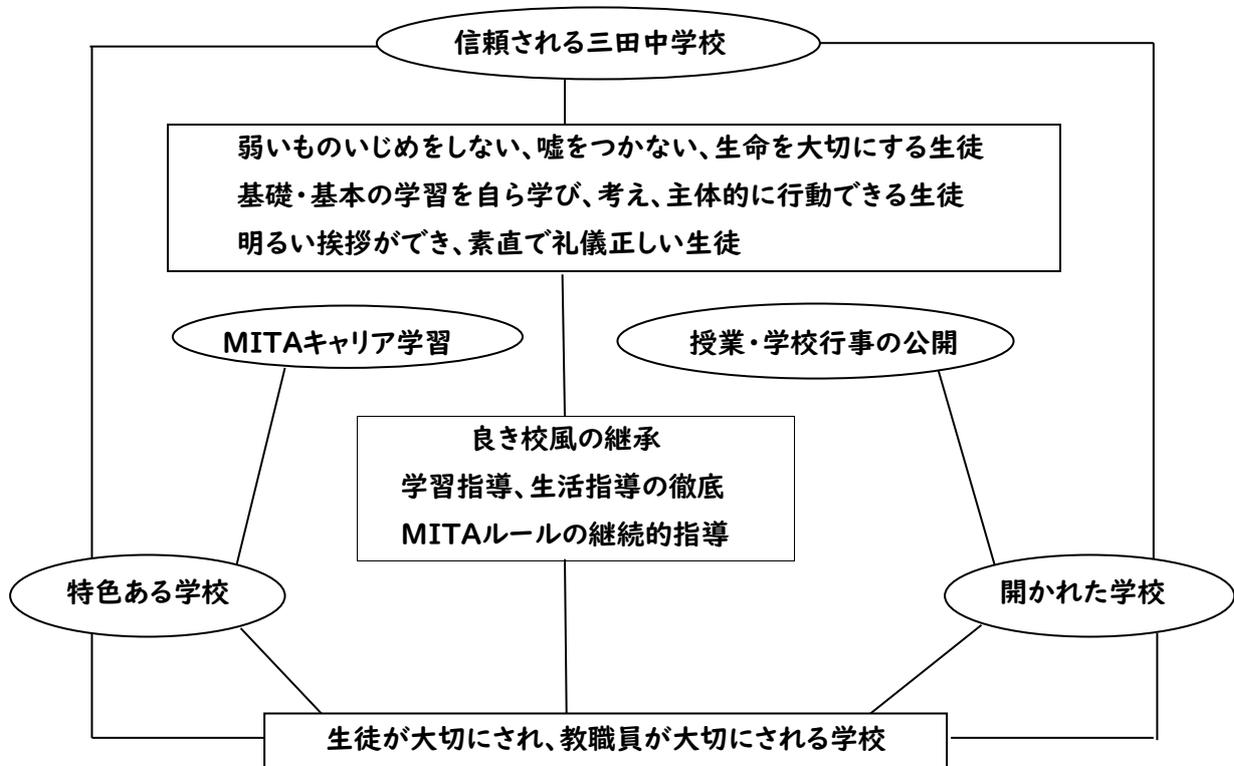
- 厳しく、丁寧に真剣に生徒と向き合う教師
- 生徒とともに活動する教師
- 生徒と一緒に親身になって考える教師

[目指す学校像]

- 1 学び合い、教え合い、話し合う中で、自ら考え、行動し、礼儀正しく、明るく素直な生徒を育て、生徒自身が誇れる学校
- 2 人権教育とキャリア教育の推進を図り、一人一人の生徒の今と将来を大切にしていることが実感できる学校
- 3 「弱い者いじめをしない」「嘘をつかない」「生命を大切にする」ことの指導を徹底し、いじめのない、思いやりのある心豊かな態度と行動が表れる学校
- 4 授業規律を確立し、工夫された計画的な生徒主体の授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、活用して、問題解決を図る「主体的・対話的で深い学び」を実現する学校
- 5 保護者と地域に学校を開き、地域に積極的に参加し、信頼される教育活動を進め、保護者・地域・近隣の小学校から愛され、信頼される学校
- 6 生徒が、授業規律や基本的生活習慣を守り、学習活動や部活動、学校行事等何事にも主体的に行動する学校

II 中期的経営目標と方策

基本構想



◎今年度の取組目標と方策

1 学習指導について ～ 授業で生徒との信頼関係をつくる

- 学習指導要領の趣旨をふまえ、生徒主体の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教科等横断的な視点で授業改善を活性化していく。
- 基本的な学習習慣を確立するために、始・終業時のあいさつ、予習・復習、チャイム着席・始業、忘れ物、私語、提出物、「聴く」姿勢・態度等、MITAルールを基本とし徹底を図る。
- 学力向上を図るために、数学、英語において少人数授業を実施し、個に応じた指導を一層充実させる。
- 理科では観察・実験を多く取り入れるほか、港区立科学館での体験的な学習を通して、科学的な思考力・表現力を高める。
- 環境教育の一つとして、自然環境やビオトープを活用した教育を充実する。
- 授業の中では基礎・基本の徹底はもとより、長期休業中や試験前の補充授業を行って、学力向上を目指す。
- 常に1時間の授業の指導目標をはっきりさせ、振り返りを大切に、「分かる授業」や「個に応じた指導」の充実を図り、授業の工夫・改善を一層推進する。
- 各教科が中心となり、英検、漢検、数検、パソコンなどの検定へのチャレンジや各種ポスターコンクール、作文・標語コンクールに応募し、一人一人の生徒の個性や能力を伸ばす。
- 授業力向上に向けて、全生徒に授業評価アンケートを実施し、授業の工夫・改善を図る。
- 英語教育を充実させ、特に英語科国際の授業においてはコミュニケーション力を高める授業を展開し、豊かな表現力を育成する。
- 教科担任と学級担任や学年に生徒の様子を積極的に情報交換することでお互い生徒理解を深め、生徒のもっている個性（良さや可能性）を伸ばす。
- 「考える道徳」「議論する道徳」への指導方法を工夫し、人が人として生きる上で大切な倫理観や道徳性、多様性を身に付けさせる。
- 体育の授業、体育的行事、部活動等を通して、体力の向上と運動能力の伸長に努める。
- ICT機器を効果的に活用し、各教科の指導方法の工夫・改善を図っていく。
- 朝読書を全校体制で徹底する。

2 生活指導について ～ あらゆる場面で「豊かな人間関係づくり」を心がける

- 豊かな人間関係を育てるために、学校全体で明るく元気な「あいさつ」を励行する。
- 基本的な生活習慣を確立するために服装（身だしなみ）、遅刻、身の回りの整理整頓、清潔な生活環境等、MITAルールを基本とし徹底を図る。
- 生徒会を中心とした委員会活動、日々の給食、清掃活動などの当番活動等を丁寧に指導する。このことから一人一人の「役割と責任」を自覚させ、自主的・自立的な活動を支援していくとともに、集団の中での社会性を身に付けさせる。
- 学級・学年経営を充実させ、きまりや約束事をきちんと守る、質の高い集団づくりを目指す。

- 「いじめ」に対しては、「校内いじめ対策委員会」を中心に早期発見に努め、情報を的確に把握、共有し、保護者と連携しながら早期解決を図る。常に生徒の安全・安心な学校生活に配慮し、危機意識をもって組織的で迅速な対応を心がける。特に SNSトラブルに対しては未然の防止対策、早期解決を図っていく。また、教育相談体制を充実させ、担任、学年、スクールカウンセラーが連携し、不登校生徒への早期対応にあたる。
三田中いじめ対策協議会を年2回開催する。
- 言葉遣い(「です」「ます」をつける)については、全校体制で指導体制を整え、人権感覚に鋭敏な、豊かな言語環境をつくっていく。
- 日常の生徒指導においては、体罰、暴言などの「強圧的指導」「不適切な指導」になることなく、心に響く・心が通じ合う、生徒に寄り添う、信頼関係に基づいた指導を繰り返し、継続的に進め、細やかで丁寧な指導を行う。
- 関係諸機関と連携してセーフティー教室、薬物乱用防止教室、不審者対応訓練・避難訓練等を計画的に実施し、生徒の安全管理体制を確立する。
- 環境教育の充実を図る。SDGsを視点とした持続可能な社会の創り手となる子どもたちを育てる。ピオトープを活用した環境教育を実施する。

3 進路指導について ～ 将来の夢と目標の実現に向けた指導を行う

- 中学校3年間を見通してキャリア教育<MITAキャリア学習>を実践する。
- 3年間のキャリア教育の計画をたて、生徒一人一人が将来の夢を考え、実行でき、生徒が一步一步進めるような指導体制を構築する。
- 教職員が生徒一人一人の良さを伸ばすように指導し、生徒の将来への可能性を広げる。
- 将来への目標を身近な目標(スモールステップ)に変えることにより、学習意欲をもたせるように指導する。

4 特別活動について ～ 「何事にも全力で取り組む」集団活動を通した

自主性・主体性の育成を図る

- 部活動をはじめ、体育祭や合唱コンクール等を通して、生徒が主体的に全力で取り組める場を設定し、感動、達成感、充実感、団結力などを通して、豊かでたくましい人間関係の形成を図れるよう指導に当たる。
- 体験活動の場を地域にも広め、地域から信頼され、愛される学校を目指す。

5 近隣の幼稚園、小学校との連携について ～ 幼・小中一貫教育を推進する

○ 三田アカデミー目標

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ とともに生きる人 ・ 自ら行動する人 ・ 社会に役立つ人 |
|--|

○ 三田アカデミー生活指導目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ ・ 聞く態度 ・ 時間を守る |
|---|

- 三田アカデミーを中心に近隣幼稚園・小学校と合同研修会（年3回）を行い、授業公開や授業参観、情報交換を行い、幼・小中一貫教育を推進する。
- 7月の第2土曜日と10月の第2土曜日に「三田オープンキャンパス」と称して、近隣小学校1年生から6年生の児童・保護者に学校公開・学校説明会を開催する。

6 社会に開かれた教育課程の実現 ～ より良い学校教育を通してより良い社会をつくるという
理念、学校と保護者、地域とが共有、信頼される教育活動の展開

- 開かれた学校 説明責任の実施、学校評議員会の実施、三田中いじめ対策協議会の実施、関係者評価の実施、地域行事への参加（まちぐるみ大運動会など）、PTA・地域との連携、積極的な広報活動の実施（学校だより・ホームページ・まなびポケットの充実等）
- 可能な範囲で各教科の生徒作品や各学年行事の写真等を掲示し、生徒の教育活動の姿が保護者・来校者に伝わるようにする。
- 地域学校協働本部事業を推進し、協働して教育活動を行う。令和6年度へのコミュニティスクール設置に向けて活動を展開する。

7 「和」の職場作り・7か条（教職員の共通理解・共通実践）

- 自分の職場に誇りと愛着をもち、生徒や保護者・地域の方に教師としての熱意が伝わるようにする。
- 人材育成の視点に立って、職場全体でお互いを高め合い、質の高い、意欲的な教育活動を実践できるような活気のある職場の雰囲気大切に作る。
- 「報告・連絡・相談・記録」を常に念頭に置き、情報交換を密に行い、緊急事態には「迅速・的確・誠実」を三原則として、柔軟な対応ができる組織体制を確立する。
- 生徒・保護者と教員同士の潤いのある人間関係を構築するために、あいさつや言葉かけを励行し、電話の応対や来校者に対しても丁寧な接遇を心がける。
- 仕事の課題に対しては「一人で深刻に考えず」、「みんなで真剣に考えること」を優先し、職場全員で「健康第一」の職場づくりを心がける。
- 社会人として明るいあいさつ、清潔感のあるきちんとした服装、丁寧な言葉遣いを心がける。
- 教育の質の高さを維持しながらも仕事の効率化を図る。効率化推進のために休憩する環境を整え、職場のライフ・ワーク・バランスを推進する。